



第34号

発行 「奈良市自治連合会だより」編集委員

発行部数 15,000部

自治会活動の活性化をめざして

—令和5年度 自治会長研修会—

令和5年9月24日(日)奈良市役所正庁にて、約200名の参加をいただき、3年ぶりに開催いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大で自治会活動が思うようにできない状況の中で、アフターコロナを見据えたこれからの時代に合った新しい自治会の在り方を、一緒に学習いたしました。

今自治会に求められること

地域自治協議会推進部会 吉岡部会長より、「行政の地域支援にも限界がきている」ことから、今まだ元気なうちに地域が団体間の横串を通して、結束力を高め、ベクトルを合わせ、一丸となり運営に取り組むことが重要であることを説明いたしました。その中でも、自治会をめぐる課題が多く、自治会存続の危機感を持って「災害時をはじめ日常生活での様々な問題を住民相互が協力・連携し、まちを良くしていく」日常の大切さを再確認することが、住民自治の要であり、地域の基盤強化につながります。

“自分たちのまちを、自分たちの手で良くしよう！”

地域自治協議会とはどんなものなのか

「地域の活動体をまとめる、まとまる！」をコンセプトとして、誰もが参画でき、地域全体で対応する補完性の原則に基づく地域づくりが大切です。10年後、20年後の将来に備え、まず、つながり話し合える場をつくり、地域の総力で取り組んでいきます。任意団体である地域住民組織（自治会や各種団体など）を一本化し、地域を包括的に運営する組織を設立し、行政が制度的に「認定」することで、「地域を代表する組織」「協働パートナーの相手」として位置付けます。

これからは、住民自らが地域の未来像を描き総力で勝ち取る時代です。そのためには非常に有効な組織といえます。

次回自治会長研修会のお知らせ

令和6年度は、6月の「自治会活動の手引き」の発行に合わせて7月7日(日)午後1時から奈良市役所6階正庁での開催を予定しています。

新会長はじめベテランの自治会長にも、ぜひご参加いただければと思います。

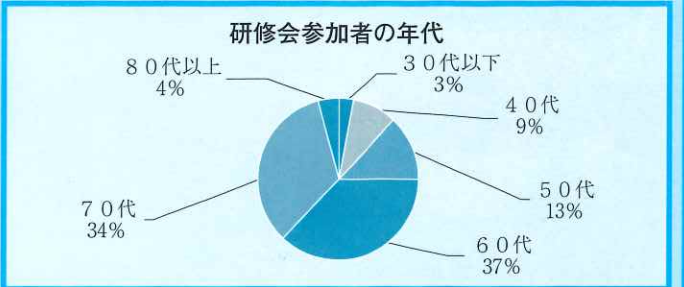
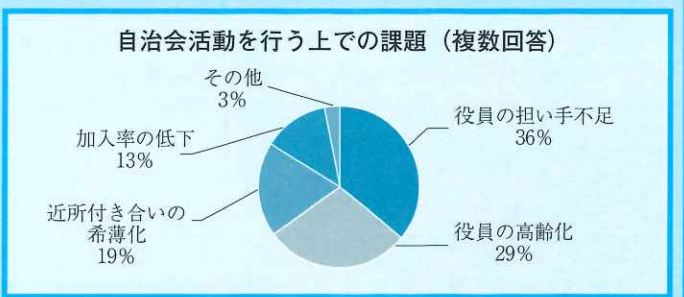
自治会活動の手引きについて

奈良市自治連合会作間会長より、自治会活動の目的(P1)、加入促進(P3)、自治会の活動とかかわりの深い奈良市の担当課・窓口(P20～23)、町内清掃実施からごみ収集までの流れ(P24～27)、自治会交付金の使い方(P28～31)などについて説明いたしました。

若い世代にとって魅力あるまちづくり 自治会長研修アンケートから

右のグラフにもあるように、総じて役員の担い手不足、役員の高齢化が深刻な課題です。この現象は、自治会にとどまらず、各種団体においても同様の結果が出ています。少子高齢化については今後ますます進んでいくのは必至であり、止めることはできません。また、近所付き合いの希薄化、自治会活動への無関心、加入率の低下についても、時代とともにますます加速化していることも否めないと思います。

そこで奈良市自治連合会は、若い世代が自分たちのまちを“魅力のあるまち”と感じ、奈良市に住み続けてくれるよう、楽しいまちづくりについて考えていかなければならないと痛感しております。単位自治会のご意見を真摯に受け止め、この問題に地区自治連合会とともにしっかり協議してまいります。



住んでよかったと思えるまちに

令和5年7月6日に奈良市の副市長に就任された真銅 正宣 氏に奈良市での役割やお考えについて伺いました。



真銅 正宣 副市長

1. 副市長の奈良市での役割(担当)は何ですか。

危機管理監、総合政策部、市民部、環境部、都市整備部、建設部や、選挙管理などの委員会、企業局との調整等に関することを所管しています。

市職員としては、これまで総務課、子ども政策課、子ども未来部、総合政策部等の業務に携わってきました。この度副市長を拝命し、市職員として携わったことがない分野も担当することとなりましたが、市民部をはじめ、市民の皆様的生活に直結する業務を所管しておりますので、各部局と連携し、地域の皆様の声を大切にして務めてまいりたいと考えております。

2. 奈良市自治連合会やその他団体との連携や、地域自治協議会の推進についてのお考えをお聞かせください。

このたびの能登半島地震において被災された方々に心からお見舞い申し上げます。地域コミュニティのつながりの希薄化などに伴う地域の防災力の低下なども危惧される場所ですが、少子高齢化の進展・ライフスタイルの多様化に伴う、地域コミュニティ機能の弱体化に多くの地域が苦慮しているという声も伺います。

それぞれの地域の方々が「このまちに住んでよかった」と思えるようなまちづくりのためには、地域を支える多様な主体が連携し、地域の課題解決に取り組むことが大切ではないかと考えます。

そのためにも、さまざまな分野で活動している団体が連携・協力することで、課題解決に取り組む「地域自治

協議会」の設立を支援していきたいと考えております。

庁内においても、それぞれの部署が当事者として地域自治協議会の設立に向けた取り組みを推進していけるよう「協働のまちづくり推進庁内検討委員会」等の場を通じてさらに意識付けをしていきたいと思っております。

3. 仕事(公)と家庭(私)の関係(優先順位や両立)について、どのようにお考えですか。

奈良市では、育児に対して男性と女性が共通の認識を持つことにより、子育て中の職員もそうでない職員も共に働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

また、コアタイム・フレックスタイムの導入や、在宅ワーク用のリモートパソコンの追加配備等を行い、在宅ワークをはじめとした「場所に縛られない働き方」を推進しています。

これらの制度を活用し、職員には、心身共に健康第一でワークライフバランスを取りながら、メリハリをつけた働き方をしてほしいと考えています。

4. 意気込みは。

奈良市が抱える様々な行政課題の解決と、市政発展のため、仲川市長、鈴木副市長、そして職員とともに、誠心誠意務めてまいります。何卒よろしくお祈り申し上げます。

奈良県自治会等連携支援モデル事業

令和5年10月2日、11月1日、13日と3回にわたり、奈良県自治会等連携支援モデル事業であるワークショップ形式の講座が催され、奈良市自治連合会、東登美ヶ丘地区社会福祉協議会、同地区民生・児童委員協議会及び生駒市中野地区健康まちづくり協議会からそれぞれ数名が参加しました。

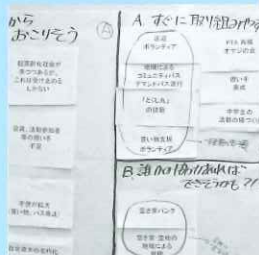
初回は地域の現状・課題を抽出し、その解決策について意見を出し合いました。第2回は前回で挙げた課題解決の糸口として、各地域団体の活動を「自己



地域の現状・課題についてグループで話し合うようす

完結型」から「連携ネットワーク型」へ変化させる必要性や、行政による地域の実情に沿った柔軟な対応の必要性など、時代に合わせた変化が求められる

話し合いの結果出された様々な意見↓



↑グループごとに話し合った内容を発表する作間会長(左)

ていることを再確認しました。第3回は地域自治協議会の設立に向けた具体的な説明があり、住民アンケートの実施や地域のデータを集計し、地域の現状を「見える化」することの重要性を再認識しました。

今回の講座で、地域自治協議会についての理解をより深めるとともに、設立に向けてより一層の努力に励むことを改めて決心しました。

地域自治協議会推進部会

自治会を始め地縁組織が衰退していく中、地域課題を解決していくには、地域を構成するあらゆる主体が一緒になって取り組む必要があります。

「今は、何とかやっけていける。」「まだ、大丈夫。」と言える元気な今のうちに組織や人をまとめ、地域全体で対応する仕組みづくりが急がれます。

このような自治会を超えた組織を「地域自治協議会」と称し、条件を整えて市条例に基づき認定された地区が3分の1となりました。

今年度は毎月の部会で、設立地区から活動報告を受けていますが、設立地区では、ベクトルを合わせ、情報共有や得意分野を生かした活動の効率的実施など、課題解決の取り組みが進んでいます。まだ元気なうちがチャンス！

後続する地区も根気強い対話で風に向かって離陸してください。

<部会長 吉岡正志>

地域課題の 解決を目指して

奈良市自治連合会では専門部会を設置し、地域課題の共有と協議を図っています。ここに一部ですが、ご紹介させていただきます。

防災防犯部会

【防災】災害発生時は、まず、自分の命は自分で守りましょう（自助）。次に、近所の状況を把握し、みんなで助け合います（共助）。これには平素のお付き合いがたいへん大事で日頃の自治会活動の大切さがここにあります。市役所・消防・警察・自衛隊などの公的支援（公助）は、すぐには間に合いません。そこで、水・食料・生活用品等を備蓄しておきましょう。また、ホイッスル（特に重要）を常に身につけておきましょう。

災害発生時の対応方法については、家族会議を開いて家族みんなが理解し、共有しましょう。

【防犯】昨年より侵入型窃盗が増加しています。センサーライトや開閉センサーなどで備えましょう。

「電話口 お金の話 それは詐欺」

<部会長 池口光隆>

学校部会

昨年度の全国小中学校不登校児童生徒は、過去最多の約29万9千人で、前年度比22.1%の大幅増でした。

いじめは小・中・高などで約68万2千件が認知され、被害が深刻な重大事態は923件と過去最多となっています。

コロナ禍による家庭の経済不安などが子どもにストレスを与える状況が続き、不登校という形で強く表れたと見られています。

今年度は各地区自治連合会長へのアンケート調査から抽出した①不登校問題②通学路の安全整備③地域教育協議会と学校運営協議会について等を教育委員会担当者の協力のもと3回にわたり意見交換をし、次へのステップに繋げていきたいと考えています。

<部会長 河野良彦>

福祉部会

福祉部会では、高齢者・独居人・子ども等の生活弱者にスポットを当てて、地域で住みよいまちづくりのために地域の課題に取り組んでいます。

今年度は、各地で農協スーパーの廃止や商店の廃業による買い物難民の急増について、現状とその対応策を考え、取り組み方の検討とその事例を報告いたします。（移動販売）

また、最近では子どもたちの不登校がコロナ禍の影響により増加しています。しかし、こころの病を抱えている子どもたちが立ち寄れる、心地の良い居場所が少ないように感じます。地域全体が力を合わせて子どもの居場所づくりについて考えるよう提案します。

他にも色々なテーマがありますが、次年度に取り組んでいきたいと思っています。

<部会長 堂上健次>

他市町村との交流で地域活動を活性化

令和5年度は、6月23日（金）福井市自治会連合会、9月9日（土）上牧町自治連合会、11月6日（月）京都府八幡市自治連合会、11月29日（水）宮崎市自治会連合会と、それぞれ15名以上の奈良市視察訪問があり、奈良市自治連合会の役員が対応させていただきました。

視察内容は、地域自治協議会設立や安心安全なまちづくりへの取り組み、自治会の活性化についてなどで、意見交換をするなかで自治会活動の形骸化、加入率の低下、防災、まちづくりについてなど、総じてどの自治体も同じ悩みを持っていることが分かりま



宮崎市自治会連合会の視察訪問のようす

した。

また、12月8日（金）川西町自治連合会に奈良市自治連合会 作間会長と吉岡相談役が講師に招かれ、自治会の役割や今後の自治会の在り方など自治会を中心とした内容の講演を行いました。

今後も他市町村と積極的に交流し、本市においても他市町村の取り組みを参考に、さらに地域活動を活性化させたいと思います。

わがまち自慢



ホームページでネット社会にも対応

伏見地区自治連合会

伏見地区は、東は近鉄橿原線から西はあやめ池・学園南の境、南北は近鉄西大寺駅の南側から阪奈道路までの地域で広い区域となっています。西大寺、菅原神社など歴史的な文化財にも恵まれ、多くの観光客の来訪で賑わいのある街並みと西大寺駅周辺整備事業の開発や正田町周辺の住宅開発が行われ、清閑な住宅地が多くある地区で多くの方が伏見地区に居住されています。特に伏見小学校といえれば奈良市でも一番児童数の多いマンモス小学校となっています。

昨年までコロナ感染予防対策等で地域のつながりが希薄になり、支えあうまちづくりの活動が停止になるなどこれまでの取り組みが止まってしまいましたが、ようやく、本来の活動を行えるようになりました。



防災訓練での仮設テント 地域では、10月の総合防

災訓練で、300名の住民参加があり、そして、昨年からエリアを拡大し、子ども中心のまつりから子どもも大人も楽しめるまつりにしたいと早くから実行委員会を立ち上げ取り組んできました「伏見まつり」は11月4日好天の中、過去最高の2,500名の参加をいただき開催することができました。「住みやすいまち伏見」実現に向けて多くの方がふれあい、つながりを感じた一日となりました。



また、連合会では今年度の特徴として総務・環境・広報委員会を立ち上げ、各分野に分かれて課題等に取り組むようになりました。特に住民の方に地域の動きがわかるように伏見地区自治連合会のホームページを立ち上げ、ネットワークを広めています。各団体の活動状況も分かるホームページにしています。



伏見地区自治連合会ホームページQRコード

是非一度QRコードからアクセスしてください。

世代を超えて守る地域の歴史と伝統

狭川地区自治連合会

狭川地区は奈良市の最北東に位置しており、JR関西本線の笠置駅(京都府笠置町)へ徒歩で1時間(約4Km)位の距離に位置します。奈良市内への通学や通勤に昭和30年~50年頃まで笠置駅を利用できるバスが運行しておりました。今現在10町(140世帯前後)で構成されています。

奈良市内から車で30分位走ると、奈良寄りの狭川両町から笠置駅に近い広岡町まで、山と川に挟まれた(数キロ間)のどかな地域で、この地域には、3箇所(上狭川城・大和下狭川城・下狭川下垣内城)の城跡が今も残っております。江戸時代には狭川氏、福岡氏、佐野氏がこの狭川地区を治めていました。そして、笠置町に近い広岡町には、柳生藩に抛出する米倉の礎石が少し残っていました。

狭川地区内には狭川九頭神社があり、例祭は室町

時代から400年も続く神事芸能が伝承されています。境内には樹齢500年余りのご神木のイチヨウの大木が立っております。九頭神社の歴史有る伝統行事には地域の住民の方々や地域と繋がりのある人々の協力のもと、特に例大祭においては、狭川地区自治連合会も子ども神輿の実施担当として、地域の子も達と伝統行事を守っております。



地域の子も達も伝統行事に参加

編集後記

元日の昼下がりに、まったくしていたところに突然の揺れ。帰省していた娘二人は「閉じ込められたらアカンさかい玄関開けてくる」と言い駆け出した。小生は揺れる天井の照明を見ながら「横揺れやからプレートのひずみやな」と解説者気取り。日頃「危機意識を持ち、迅速で冷静な対応を！」と話している防災士歴十数年の小生、改めて自分のふがいなさを反省。(長谷川編集委員長)